

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 須藤 真史

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、2025 年 1 月 24 日から 2 月 25 日までの 33 日間、海外語学留学(自主企画)で、カナダのバンクーバーを訪問しました。私はホームステイ先から現地の語学学校である LSI Vancouver に通いました。

2. 渡航前に考えていた自分の目標

私が渡航前に掲げていた目標は、「英語を通して新しい考え方や価値観を学び、それを持ち帰ること」でした。

中学 2 年生のときに 10 日間ハワイへ留学し、現地の人と交流してさまざまな文化や人々と触れ合うことができました。しかし、当時は単語も文法もわからず、話したいことが話せない、相手の言っていることが理解できないという状態でした。

そこで、今回は中学・高校・大学で学んだ英語を活かし、とにかく積極的に会話をしながら、これまで知らなかった考え方や価値観を最大限に学び、それを今後に活かしたいと考えました。また、英語を学ぶにあたって、ホストファミリーやカフェの店員さん、語学学校のメンバーなどさまざまな人と話す中で、自分の足りない部分を発見し、会話を通して改善・習得していこうと思っていました。

3. 渡航中での学び

渡航中には多くの経験を通じて、数えきれないほどの学びがありました。その中でも特に 2 つのことが私にとって貴重な学びでした。

1 つ目は、「意見を言うことを恐れない」ことです。語学学校の初日、授業中に先生から質問が来る前に自分の主張を述べる生徒ばかりだったことに驚きました。私は渡航するまで、正直なところ他人の目を気にしすぎて、なかなか意見を言えませんでした。しかし、語学学校での経験を通して、「意見を言わないことは損であり、間違えても自分以外は誰も気にしていない」ということを実感しました。また、意見を言うことに慣れていなかったため、自分の考えを言葉にする難しさも痛感しました。

2 つ目は、「英会話ではテンポが大事である」ということです。英語を聞いて瞬時に理解し、言いたいことをすぐにひねり出せないと、会話が成立しないことを痛感しました。ある程度の文法ミスは気にせず、とにかく瞬時に考えてアウトプットすることが、失敗を恐れずに現地の人と英会話を続ける秘訣だと感じました。また、英単語や表現を英語のまま理解することの重要性にも気づきました。

4. 渡航後

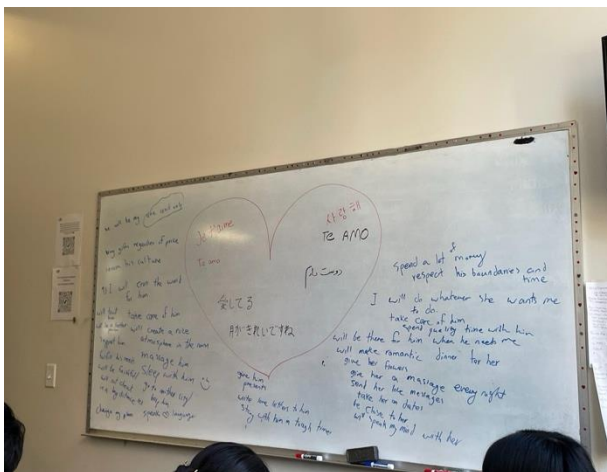
渡航前は、正直なところ英語を話せる自信がまったくなく、不安でいっぱいでした。しかし、渡航中にたくさん悔しい経験や学びを得て、それを改善することで、「ある程度なら日常会話ができる」と自信を持つことができました。

また、意見を述べることの大切さや、英会話で重要なポイントを学び、これからは自分の考えを積極的に口に出すことを意識していこうと思いました。さらに、日常生活の中で独り言を英語で話す習慣を取り入れ、語彙や文法をさらに増やしながらか、将来に活かせるよう英語学習を続けたいと考えています。

5. 語学学校の授業について

クラスは初日にスピーキングと文法のテストによって5段階に分けられました。1クラスあたり約15人がおり、南米、メキシコ、韓国、カナダのフランス語圏であるケベックなど、さまざまな国や地域から英語を学びに来ていました。午前の授業は必須で、月曜日から木曜日の午後には追加の授業を受けることができ、私はすべての授業を受講しました。水曜日の16時からと金曜日の午後はアクティビティの時間があり、さまざまな観光地を訪れてほかのクラスの学生と交流する機会もありました。

授業は文法をメインとするものもありましたが、基本的にはアクティブラーニング形式で、とにかく話すことが重視されていました。この授業のおかげで、英語を話すことへの抵抗がほとんどなくなり、学んだ英語を実践的にアウトプットできる貴重な機会となりました。しかし、中には日本語でも説明が難しいような質問、例えば「あなたはセンシティブな人ですか？感情を表に出す人ですか？何がそうさせるのですか？」といった質問に英語で答えることは非常に苦労しました。このような質問に対してしっかりと答えられる人が多かったのも印象的で、英語を学ぶだけでなく、自分自身を深く知ることの大切さも感じました。



授業中の様子



語学学校(LSI)

6. 授業後の時間

水曜日と金曜日の授業後には、バンクーバーの有名な観光地であるスタンレーパークやガスタウンに行ったり、アイススケートやピザパーティーに参加したりしました。観光を楽しむだけでなく、クラスの異なる友達とも会話する良い機会でした。

水曜日・金曜日以外の平日や週末には、語学学校の友達とカフェやレストランへ行ったり、映画を観たりして、仲を深めるとともに、できるだけ多く英語に触れるようにしました。そのおかげで、いろいろな国の文化を知ることができ、非常に有意義な時間を過ごせました。



カフェ



授業後の様子

7. 最後に

この約 1 か月の語学留学を通して、英語を聞いて話すことの難しさや楽しさを体験することができました。また、英語を通じて海外の文化や価値観にも触れることができ、この経験は私の人生にとってかけがえのないものとなりました。今回得た英語力だけでなく、今後の人生において必要なスキルを積極的に活かしていきたいと思います。

国際交流基金の助成がなければ、このような貴重な経験はできなかったと思います。本当に素晴らしい機会をいただき、心から感謝申し上げます。